

沼田眞賞（湧き水保全に関して）もあわせて受賞し、責任と共に歴史を感じます。身近な緑と湧き水を多くの人に知ってもらい、親しみ、守り、後世に伝える活動を続けていこうと思います。皆様と一緒にどうぞ。

埋土種子の生命力に魅せられて

東 亮太

新倉ふれあいの森は、前期5年の里山保全の活動を終え、次のステージへ移りますがこの間多くのことを学ぶことが出来ました。

当森、オープンの前年の夏でした。道路に面した道端は落ち葉とゴミの山となっていたが、そこに天女の出で立ちで朱色の花1輪が突如として咲き出してきました。その姿は1両日で見えなくなり、さては盗掘かと悔しがったものでした。今思えばその近くはキツネノカミソリの群生地だったのです。華々しいオープンに続く私たち会員の活動は、森を明るくするための下枝払いと下草刈りの連続でしたが、そこにはリーダーの指導があり、又何年の眠りから覚めたのか定かでないが、埋土種子が萌え出るのに理にかなった作業であった事は、オープン以来草木の名札を付けたのが30種ほどでそのうちの半数がキンラン、ギンランに続く貴重種の豊富な里山であったと言う恵みにも浴していた事に重ねて感謝します。



ふれあいの森づくりはふれあい社会作り！

赤松 祐造

保全活動を通して森の樹木の名前から特長、高木から低木、草木、昆虫など、生物多様性の大切さを学んで、良い森づくりは人間社会のモデルの様です。みんな異なるがみんな大切。しかし、放って置くと、クズなどがはびこり荒放題になる。適宜に手入れが必要。又、ふれあいの森づくりに参加して良い事は樹木の名前を知るだけでなく、多くの市民と出会えることです。仲間が増え、活動の輪が広がり、観察会などに参加して、町の事が解り段々好きになり和光市が自分の町になる様です。湧き水の会の保全活動は大切な町づくり活動だと私は思っています。これらに参加出来た事に感謝しています。又、無縁社会と言われるがこの NPO の活動にもっと多くの方が参加し、ふれあい社会が広がっていくことを望んでいます。

小さな森から大きな森へ



ふれあいの輪



観察の輪

保全協力の輪